

令和7年3月14日

中野国土交通大臣コメント

北海道新幹線（新函館北斗・札幌間）の工事に関して、昨年5月、鉄道・運輸機構より、現状を踏まえると令和12年度末（2030年度末）の完成・開業については極めて困難であると判断した旨の報告がありました。

これに関する斉藤前大臣からの指示に基づき、有識者会議において、鉄道・運輸機構の報告内容が合理的であるのか、講じることができる方策がないか、精査を行って頂くとともに、工程短縮策については、地質不良等の現場における最新の技術・ノウハウなど実務面での英知を横断的に集結しながら検討を行って頂きました。

その結果として、本日、有識者会議の森地座長より、有識者会議における検討結果をとりまとめた報告書を手交いただきました。本事業について沿線自治体等の関係者の大きな期待がある中で、報告書で示された開業時期の見通しについては、私自身重く受け止め、報告書の内容を踏まえて、鉄道局及び鉄道・運輸機構に対して、以下のことに取り組むよう指示をいたしました。

- ・今後の見通しについて、沿線自治体等の関係者に丁寧かつ速やかに説明を行うとともに、関係者の理解と協力を得るためにも、引き続き、工事の進捗状況やリスクの発現状況等について、随時情報共有すること。
- ・現時点の開業見通しには相当程度の不確実性が残るため、トンネルの貫通に一定の目途が立った段階で、改めて全体工程を精査すること。
- ・沿線自治体、営業主であるJR北海道等の関係者と一丸となって、リスクの発現やその影響を最小限にしつつ、工程にも工夫を凝らし、一日も早い完成・開業を目指すこと。

北海道新幹線の整備に当たっては、沿線自治体等の関係者の皆様の難事へのご理解と工事の円滑な推進へのなお一層のご協力が不可欠です。建設主体である鉄道・運輸機構に対しても指示したところですが、国土交通省としても、関係者の理解と協力を得て、一丸となって、北海道新幹線の整備を着実に進めるよう努めてまいります。